音楽療法士学科　実務経験のある教員等による授業科目一覧

医療職業実践専門課程										
音楽療法士学科　※授業1単位＝15時間、実技・演習1単位＝30時間、技能・実習1単位＝45時間										
科目名			授業分類			授業時間数				単位
			講義	実技	実習	1年次	2年次	3年次	計	
音楽療法分野	必修理論	音楽療法概論	○			30			30	2
	必修基礎	音楽療法の理論と技法Ⅰ	○				30		30	2
	必修臨床	音楽療法各論Ⅱ	○				30		30	2
	必修技能	技能Ⅰ		○		60			60	2
	必修演習・実習	実習Ⅰ			○	30	30	30	90	2
		実習Ⅱ			○		45	45	90	2
		実習Ⅲ			○		45	45	90	2
		実習Ⅳ			○	30	30	30	90	2
	必　修	卒業論文	○					60	60	4
	小　計					150	210	210	570	20
合　計						150	210	360	570	20

※「選択」は日本音楽療法学会で示された科目内で、本学で開講している必修授業を表す

成績の評価及び履修認定について

（授業科目履修の認定に係る学則）

第 23 条　授業科目の履修に関しては、授業時間数の３分の２以上出席し、試験に合格した者に、所定の単位を与える。ただし平素の学習状況又は論文等をもって試験に代えることができる。

2　試験の成績の評価は、秀、優、良、可又は不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。

3　前項の秀は 90 点、優は 80 点、良は 70 点、可は 60 点割を基準とし、総合的な評価を行なう。

（GPA の導入について）

GPA（Grade Point Average）とは、履修した科目１単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目１単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第３位を切り捨てして表記する。

1　成績評価の適切な取組の概要

成績評価については、「秀(90点)、優(80点)、良(70点)、可(60点)、不可」の５段階で評価し、可以上で合格となる。また，GP（Grade Point）としては、「秀は4.0、優は3.0、良は2.0、可は1.0、不可は0.0」とする。

GPA 算出式

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修科目の単位数×ポイント）の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

2．ＧＰＡの種類

GPA は年度ごとに算出したもの（年度GPA）、入学時から現在の学期まで通算したもの（累積GPA）があり、その計算方法は次のとおり。

①年度GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

②累積GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を入学時

からの履修総単位数で除して算出する。

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法概論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法　2年 特別養護老人ホームでの音楽療法　6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	月曜日　3時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音楽療法の基礎的な知識、理論を学ぶと共に、実践に活用できる技術を習得する。また、人と共感することのできる音楽療法士としての感性を養う。	授業態度、課題提出、筆記試験
	教科書
授業概要	音楽療法の基礎
テキストを通して知識・理論の理解を深める。 ワークや発表の場を通して実践の技術を学ぶ。	参考書 標準音楽療法入門(上)(下)

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション パーソナル・ソング鑑賞	第1回	
第2回	音楽療法とは　音楽療法の定義	第2回	
第3回	音楽療法の対象・目的	第3回	
第4回	音楽療法士になるには	第4回	
第5回	音楽療法の歴史	第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回	音楽の生理的作用	第8回	
第9回	音楽の心理的作用	第9回	
第10回	音楽の社会的作用	第10回	
第11回	同質の原理・1／fゆらぎ	第11回	
第12回	模擬セッション	第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回	前期のまとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法の理論と技法Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年・2編		

実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法 5年 精神科単科病院での音楽療法 5年 児童発達支援センターでの音楽療法 7年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な、対象者に合わせた曲目、楽器、活動を計画・実践できる力を養う。

学期区分				
	前期	水曜日 3時限	講義室等	301教室
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
児童、成人、高齢者の領域における音楽療法の理論を学び、テキストやワークを通して臨床現場で行われている技法を体験する。実際の臨床現場において、音楽を対象者に合わせて選択し使いこなす技術を身につける。	試験およびレポート
	教科書
授業概要	音楽療法を知る―その理論と技法―
臨床現場で使われる音楽の技法を紹介し、体験的に学びながら理解を深める。	参考書
	音楽療法入門

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	音楽療法とは	第1回	
第2回	治療道具としての音楽の特性	第2回	
第3回	音楽の三要素	第3回	
第4回	①メロディ	第4回	
第5回	②リズム	第5回	
第6回	③ハーモニー	第6回	
第7回	歌唱活動の意義	第7回	
第8回	ワーク	第8回	
第9回	楽器活動の意義	第9回	
第10回	ワーク:音楽とコミュニケーション	第10回	
第11回	ワーク:自己表現	第11回	
第12回	創作活動の意義	第12回	
第13回	ワーク:歌づくり	第13回	
第14回	鑑賞の意義	第14回	
第15回	グループ発表	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法各論Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年・2編		

実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法 5年 精神科単科病院での音楽療法 5年 児童発達支援センターでの音楽療法 6年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な、対象者に合わせた曲目、楽器、活動を計画・実践できる力を養う。

学期区分			講義室等	301教室
	前期			
	後期	火曜日 3時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
日本の精神医療の歴史、精神科領域の病理を学び、現場で必要とされるセラピストとしての姿勢、役割、技法について学ぶ。	試験およびレポート
	教科書
授業概要	精神疾患メンタルヘルスガイドブック
テキストを用いて理論と実践の理解を深める。精神科領域のセッションのワークショップを通して体験的に技法を獲得する。	参考書 精神科領域における音楽療法ハンドブック

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	精神科医療の歴史①
第3回		第3回	精神科医療の歴史②
第4回		第4回	精神疾患①
第5回		第5回	精神疾患②
第6回		第6回	精神疾患③
第7回		第7回	精神疾患④
第8回		第8回	精神科における音楽療法①
第9回		第9回	精神科における音楽療法②
第10回		第10回	精神科における音楽療法③
第11回		第11回	症例検討①
第12回		第12回	症例検討②
第13回		第13回	グループ発表
第14回		第14回	グループ発表
第15回		第15回	後期のまとめ

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	技能Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法　2年 特別養護老人ホームでの音楽療法　6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要なコードの習得及びコード伴奏と現場での実践力を養う。						
学期区分	前期	火曜日　2時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	実技		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
コードを習得し、童謡・唱歌・歌謡・その他の楽曲を用いてコード伴奏の技術を高める。また、現場の実践に役立つよう力をつける。	授業態度、課題提出・発表、筆記試験
	教科書
授業概要	歌伴のすべて
講義または演習	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	授業概要 歌唱、コードの種類	第1回	sus4　伴奏法、個別レッスン
第2回	メジャーコード	第2回	aug
第3回	マイナーコード	第3回	6
第4回	伴奏法、個別レッスン	第4回	m6
第5回	↓	第5回	ディミニッシュコード
第6回	↓	第6回	↓
第7回	セブンスコード	第7回	↓
第8回	マイナーセブンスコード	第8回	↓
第9回	伴奏法、個別レッスン	第9回	↓
第10回	↓	第10回	↓
第11回	↓	第11回	↓
第12回	課題発表(全体)	第12回	課題発表(全体)
第13回	↓	第13回	↓
第14回	↓	第14回	↓
第15回	↓	第15回	↓

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年・2年・2編・3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　7年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な障害児への音楽療法の実践的基礎力を養う。						
学期区分	前期			講義室等	特別支援学校		
	後期	木曜日　3・4時限(隔週)		授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
障害児への理解と教育現場での教育的支援を学び、音楽療法の実践的基礎を学ぶ。	出席、実習記録
	教科書
授業概要	なし
配属先の小学部、中学部、高等部、訪問学級等で各指導担当の先生に障がいのある児童への支援方法を学び、実習記録を通して担当教員に報告する。	参考書
	なし

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後学期〉			第1回	ガイダンス
第1回	ガイダンス		第2回	MTタイムにおけるミニセッション
第2回	障害児とのふれあい 障害児教育を学ぶ		第3回	
第3回			第4回	
第4回			第5回	
第5回			第6回	
第6回			第7回	
第7回			第8回	
第8回			第9回	
第9回			第10回	
第10回			第11回	
第11回			第12回	
第12回			第13回	
第13回			第14回	
第14回			第15回	
第15回				

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年・2編・3年		

実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　7年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な児童発達支援センターでの集団音楽療法の実践力を養う。

学期区分	前期	水曜日　1・2時限	講義室等	児童発達支援センター
	後期		授業形式	実習

授業のねらい、目標	児童発達支援センターで、施設職員との連携を学び、一人ひとりの対象児の音楽療法の目標を明確にしながら、集団音楽療法を実践する。
授業概要	チームで計画・実践を進めていく中で、仲間同士が協力し合い、対象児の発達段階に適した支援ができるよう指導を行う。
成績評価の方法	出席、実習記録、実習への参加姿勢
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	実習・プログラム作成・反省	第2回	実習・プログラム作成・反省
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回	カンファレンス	第15回	カンファレンス

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年・2編・3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法　2年 特別養護老人ホームでの音楽療法　6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な現場での実践的な知識と技術を養う。						
学期区分	前期	水曜日　1・2時限		講義室等	障害福祉サービス事業所		
	後期			授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・障害福祉サービス事業所で、対象者との関わり、施設職員との連携を学ぶ。 ・アセスメント、目標、プログラム作成、評価を学び、集団音楽療法を実践する。 ・グループで計画、実践する中で協調性を学ぶ。	出席、実習記録、実習への参加姿勢
	教科書
授業概要	なし
個別指導、グループでの共有・実践	参考書
	なし

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	実習・プログラム作成・反省	第2回	実習・プログラム作成・反省
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅳ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	堀内操			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 介護老人保健施設での音楽療法　29年 障害児対象の音楽療法　10年 障害者対象の音楽療法　10年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な高齢者施設での集団で行う音楽療法及びプログラム作成、実践力を養う。						
学期区分	前期	金曜日　1・2時限		講義室等	介護老人保健施設		
	後期			授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
前期は、高齢者施設の介護老人保健施設において、入所・通所のリハビリとして集団で行っている音楽療法を体験し学ぶ。また後期はグループホームにおいて、対象者に合わせた目標の立て方、プログラム作成、実践を学ぶ。	実習に対するレポート、活動状況および学期末試験・レポートによって評価する。
	教科書
授業概要	なし
チームで計画、実践、反省、評価を進め、それぞれの知識と技術を高めあえるような授業をする。	参考書
	なし

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	施設の概要説明と諸注意の確認	第1回	実習・反省
第2回	担当教員によるセッション・見学	第2回	
第3回		第3回	
第4回	実習・反省	第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

シラバス

授業科目区分	基礎科目	担当科目	卒業論文	単位数	4	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	3年		

実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　7年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な臨床研究、調査研究を行い、論文の作成及び発表する力を養う。

学期区分				
	前期	火曜日　1時限	講義室等	304教室
	後期	水曜日　3時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
3年間の音楽療法専門教育の過程や臨床活動から学生が学んだ価値観、臨床における哲学や思想、そして理論・技術を統合的にまとめた論文を作成する。臨床研究と調査研究などを行う。2月には卒業論文発表を行い、卒業論文集も作成する。	作成された論文をその専門性や倫理上の問題にも注目し、学際的視点で評価する。
	教科書
授業概要	なし
ゼミ形式で討論を積み重ねながら進める。	参考書
	各自の研究分野によって指定

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	卒業論文について	第1回	中間発表準備
第2回	テーマ設定	第2回	↓
第3回	アウトライン設定	第3回	↓
第4回	↓	第4回	↓
第5回	↓	第5回	中間発表
第6回	先行研究収集	第6回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第7回	↓	第7回	↓
第8回	↓	第8回	↓
第9回	↓	第9回	↓
第10回	↓	第10回	↓
第11回	↓	第11回	↓
第12回	プレゼンテーション作成	第12回	↓
第13回	↓	第13回	卒業論文発表準備
第14回	↓	第14回	卒業論文発表リハーサル
第15回	↓	第15回	卒業論文発表